

文部科学省
学校評価の推進に関する調査研究協力者会議
平成18年度

広島県における学校評価の取組

－ 研修重視の視点 －

長尾 眞文

(広島大学 教育開発国際協力研究センター)

1 広島県の小中学校による学校評価システムの導入

広島県教委：

- 平成13～14年度 広島県学校評価システム検討会議の作業実施
- 平成13～14年度 モデル実践研究の実施
- 平成14年11月 『広島県における学校評価システムの在り方』（検討会議報告書）刊行
- 平成15年1月 『学校評価資料－協力校の実践事例』刊行
- 平成15年4月 「広島県立高等学校等管理規則」改正・学校（自己）評価実施の義務規定化
小中学校についても各市町村（福山市を除く）で同様に義務規定化
- 平成15年4月 学校評価システム導入の開始

広島市教委：

- 平成14～15年度 広島市学校評価システム検討会議の作業実施
- 平成15年4月 「広島市立学校の管理、に關する規則」改正・点検評価実施の義務規定化
- 平成15～16年度 学校評価システム導入モデル事業の実施
- 平成16年2月 成 広島市学校評価システム検討会議最終報告書（『子どもたちの健やかな長のために』）刊行
- 平成16年4月 学校評価システム導入の開始
- 平成17年3月 『学校評価実践事例集』刊行
- 平成17年 『これからの学校づくりのために 学校評価』刊行

広島県立教育センター：

- 平成15年度～ 「教員評価者」養成のための県・市教委合同学校評価研修講座（4日間研修）を開設（日本評価学会評価研修プログラム認証取得第1号）

2 義務規定による自己評価システム導入の経験

- 教育委員会主導：
 - ① 「標準的な学校評価システム」実施の指針を提示
 - ② モデル実践校の事例紹介
 - ③ 義務規定で導入開始、3年で定着目指す
- 外見的には、導入局面から定着局面に到達。中には、自己評価と外部評価から成る学校評価システムを学校経営のマネージメント・サイクルにうまく組み込んだ例もある。成否の鍵は：
 - (1) 評価実施目的の明確化とその全校的共有
 - (2) 努力目標と成果目標の明確な区別と相互の関連付け
 - (3) 外部評価も含む評価結果の公表から活用への意識転換
- 多くの小中学校が直面している問題：
 - ① 実施体制の不備 ⇔ リーダーシップの欠如・教職員の多忙感
 - ② 目標管理の重圧 ⇔ 人事評価との混同 ⇔ 評価拒否姿勢
 - ③ 手法の学習機会の不足 ⇔ 教育の質の客観的評価の難しさ
 - ④ 外部評価実施体制確立の難しさ
 - ⑤ 専門的支援の欠如

3 広島県教委・広島市教委の現在の取組・課題

(1) 各学校における自己評価の取組の定着

- ① 学校内・学校間の経験の共有 ⇒ 研修の活用
- ② 課題： 教育委員会指導主事の役割は？

(2) 外部評価体制の構築

県教委：学校に任せる－学校評議員、地域関係者、大学教授等で構成
市教委：学校協力者会議に外部評価部会を設置

課題：

- ① 不明瞭な役割・責任範囲・権限
- ② 専門性・知名度を備えた人材の確保の困難
- ③ 学校に関する知識の欠如 ⇔ 外部評価者の時間的余裕
- ④ 対価支払いに関する予算制約
- ⑤ 外部評価者に対する研修

(3) 第三者評価システムのあり方の検討

- ① 自己評価、外部評価との補完性
- ② 教育委員会の役割
- ③ 専門的人材確保の問題

4 広島県立教育センターによる学校評価研修事業

学校評価研修講座の受講者評価：平成16年度

(A評価：大変参考になった ～ E評価：参考にならない / 単位：%)

講座名	受講者 人数	A 評価	B 評価	C 評価	D 評価	E 評価
学校評価(4日間) 研修講座	27	67	33	0	0	0
学校評価の在り方 (1日) 講座	173	19	69	9	3	0
教育総合講座 (学校評価/半日)	111	43	56	1	0	0
サテライト出前研修 (学校評価/半日)	173	19	64	13	5	0
合計人数 / 平均%	484	37	55	6	2	0

5 研修の例：外部評価者対象

- 広島市教委（平成17年度）
- 研修対象：市立学校の外部評価委員（各1～2名）
- 頻度・時間：年2回（2時間半/回）
- 研修内容（1回目）：
 - (1) 学校評価システムと外部評価に関する概要説明（市教委担当者）
 - (2) 実践報告：モデル指定校の取組（K小学校校長）
 - (3) 専門家講話：学校評価・外部評価に期待すること（H大学教官）
 - 学校経営と学校評価システムの関係
 - 学校経営目標と評価方法
 - 学校評価における外部評価の役割・目的
 - 外部評価の実施方法
 - 外部評価の実施で予想される問題
 - 外部評価者に対する期待

6 専門研修の例：学校評価研修(4日間)講座

- 主催：広島県立教育センター
(平成15年度より毎年1回/専門研修事業の一環)
- 協力：広島大学教育開発国際協力研究センター
- 対象：広島県内の小・中・高等学校教員25～30名(公募)
- 講師陣：広島大学教官、県立教育センター指導主事、過去の講座受講者
- 講座のねらい・目的：
 - － 学校評価の「基礎的遂行能力」の付与
受講者が学校評価の理論と実践に関する基礎的な理解を身に付けるとともに、所属校における実践事例の分析や他校事例の批判的検討等の演習体験を積むことにより、帰校後に学校評価の推進役を務められるようにする
 - － 講座受講者間の協力ネットワークを形成する
- 講座の特徴：日本評価学会の評価研修プログラムの認証取得
 - － 日本評価学会の研修プログラム認証制度設立のパイロット指定を受け、学会による審査を経て、平成17年度より3年間有効の認証を取得した
 - － 講座を修了した受講者は、学会から認定書を受領

学校評価研修講座プログラム

I 学校評価入門 (1日目)

- I-1 オープニング・セッション
- I-2 講論：学校評価の現状、課題、展望：日本では、広島県では？
- I-3 講義：評価理論入門
- I-4 講論：学校評価システムの組み立て方の実際
- I-5 演習1：学校評価の目的と基本的アプローチの設定－ニーズ分析

II 学校評価の設計と実施体制の形成 (2日目)

- II-1 講論：学校評価枠組みの構築
- II-2 学校評価実施体制の形成の実際
- II-3 演習2：学校評価枠組みの構築
- II-4 報告：学校評価枠組み構築演習の結果

III 学校経営計画の進捗状況の把握 (3日目)

- III-1 講論：プロセス評価の基本的な考え方
- III-2 講義：プロセス評価データ収集の方法
- III-3 講論：学校経営計画の進捗状況把握の実際
- III-4 演習3：学校経営のプロセス評価枠組みの構築

IV 学校評価結果の報告と活用 (4日目)

- IV-1 講論：成果評価の基本的な考え方と結果の活用
- IV-2 講論：学校経営における成果評価の実際
- IV-3 演習4：学校経営における成果評価の実施と結果の活用
- IV-4 クロージング・セッション

*1日目～3日目の夜は、参加者の任意参加による評価経験交換会開催

7 結びに代えて

1. 研修重視の学校評価システム構築の考え方

- ・ 現職教員研修の伝統に依拠
- ・ 授業づくり/授業評価と学校づくり/学校評価の対称性
- ・ 学校管理者、教職員、教育委員会指導主事、外部評価委員を対象とする多様な研修実施の勧め

2. 学校評価に必要とされる専門性の調達方法

- ・ 学校現場で蓄積される学校評価ノウハウの活用
- ・ 学校管理者登用の必須要件化
- ・ 教員評価者集団形成の可能性 ⇒ 外部評価・第三者評価での活用

3. 教育委員会の役割の明確化

- ・ 学校経営・学校評価システム導入の際の「指導と助言」
- ・ 指導主事・管理主事の集中的研修の必要
- ・ 第三者評価システムとの役割分担

経営理念	～出来るか出来ないかではなく、子どもたちのためにするかしないか～ ロジックモデルにより、各担当が進行管理を行う。
------	---

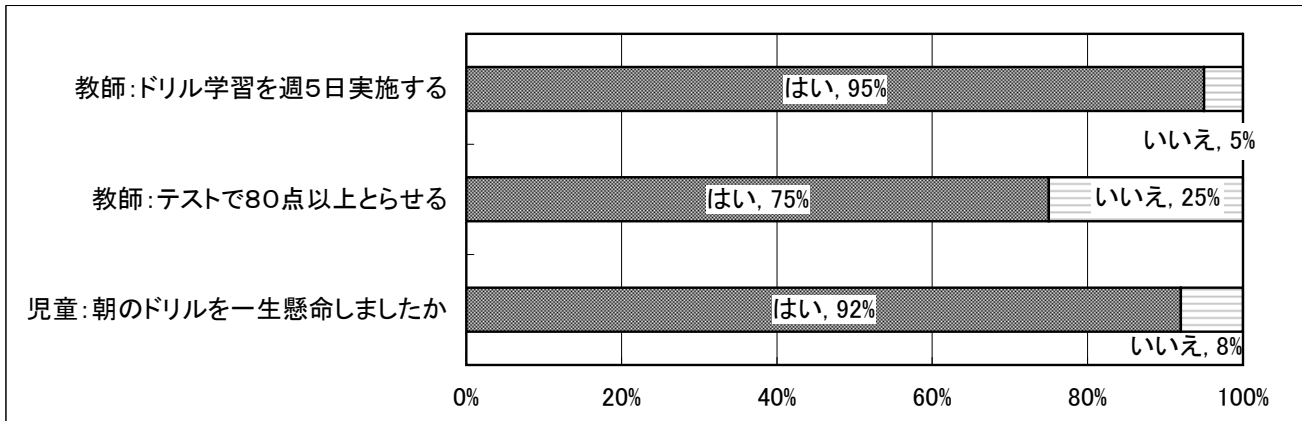
	中期経営目標	短期経営目標	目標達成のための方策	評価指標	7月	10月	1月	達成度	評価	次年度改善策
					目標値 達成値	目標値 達成値	目標値 達成値			
確かな学力の向上	基礎学力を身につけることができる。	週5日ドリルに真剣に取り組ませる。	①計画的にやりきる。(見直しを提出する) ②100マス計算とかけ算、解習漢字をくり返し定着させる。 ③はげみ学習で、漢字計算のミニテストを実施する。 ④個々のめあてを設定し、達成感を持たせる。	80点以上の児童の割合	80 75	80	80			
		学力検査の課題に学年統一の問題で取り組ませ、3ポイントアップさせる。	①学習の約束をステップを踏んで定着させる。(1年) ②場面の様子を読む。(2年) ③句読点の打ち方や会話文の書き方を指導する。(3年) ④類似問題に継続して取り組ませる。(4年以上)	学力テストの結果 3ポイントアップ			80			
	自らの考えを発表することができる。	自らの考えを発表させる。	①学習規律を身につけさせる。 ②自分の考えを持たせる時間を保障する。 ③考えたことを発表する時間を保障する。	根拠を挙げて意見を発表できた児童の割合	50 66	70	80			
		言語技術を身に付けさせる。	①言語技術を計画に沿って実践する。 ②言語技術を使った(結論先行・根拠を挙げるなど)表現方法を身につけさせる。 ③言語技術を各教科・持活の場で活用する。	学年で計画した実施回数を 充足した学級の割合 学年の目標に到達した児童の割合	80 100 79	80	80			
豊かな心の育成	思いやりのある言動ができる。	思いやりのある行動を発表させる。	①思いやりのある言動を評価し、その意味に気づかせる。 ②構成的エンカウンターを継続的に実施する。 ③良いところを見つけて、帰りの会で発表させる。	学級で決めた回数以上に報告機会を設けた学級の割合	80 70	80	80			
		友達を呼び捨てにさせない。	①正しい言葉遣いをする大切さを指導し、友達の名前を正しく呼ばせる。 ②授業では、敬称をつけて呼ばせる。 ③「～さん、～くん」と呼んでいるかを振り返らせる。	呼び捨てにされていない児童の割合	50 54	70	80			
	健やかな体の育成	生活習慣を見直し健康な体を作ることができる	毎日外遊びを30分以上させる。	①遊びを紹介する。 ②外遊びの場を設定する。 ③振り回りカード	毎日外遊びを30分以上した児童の割合	80 81	80	80		
偏食しないでバランスよく食べさせる。			①食べられる量を把握・調節する。 ②ランチルームでの給食指導を行う。 ③振り回りカード	残食0の日の割合	60 80	70	80			
秩序づくり		マナーとルールを身につける	時間を守らせる。	①教師が率先して時間を守り、規範を示す。	音楽を聴いて教室へ帰る児童の割合	50 92	70	80		
	清掃ができる。		①分担を細かく決め、手順を示す。 ②担当場所を1ヶ月は変えないで、徹底させる。 ③教師と一緒に清掃を行う。	担当の仕事を責任持って仕上げる児童の割合	50 77	70	80			
	あいさつをさせる。		①教師が率先して挨拶する。 ②授業の始まりや終わりの挨拶、教室等への出入り時の挨拶など、生活の様々な場面で挨拶を指導する。	自分から丁寧な朝の挨拶ができる児童の割合	50 54	70	80			

【評価】 A：8割以上→目標達成とみなし新たな目標設定 B：8割未満5割以上→8割を超えるまで継続実施 C：5割未満→目標の見直し
※重点課題には◎をつける

平成18年度学校評価(6月) 重点目標達成度チェック (尾道市立K小学校)

中期経営目標 基礎学力を身につけることができる

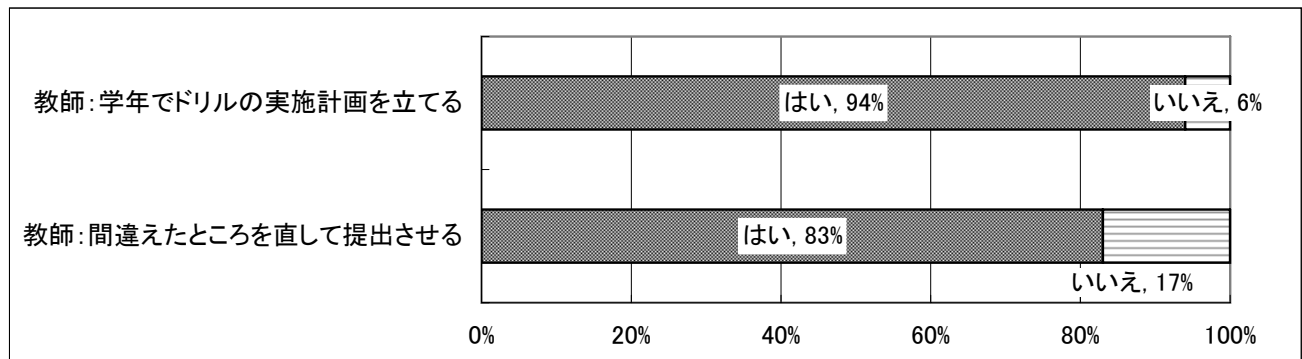
(短期実践目標) 週5日ドリルに真剣に取り組ませる
 (評価指標) 80点以上の児童の割合



考察

- ① ドリル学習のリズムが定着し、児童も真剣に取り組んでいる。
朝の10分間静かな教室が増えた。
今後は、10分間やりきるようにする。
- ② 80点以上とれている児童の割合が、80%に満たない。
テスト結果を継続して記録させることで伸びを実感させたり、評価したりする取組が必要である。

(短期実践目標) 学力検査の課題に学年統一の問題で取り組ませ、3ポイントアップさせる
 (評価指標) 学カテストの結果3ポイントアップ

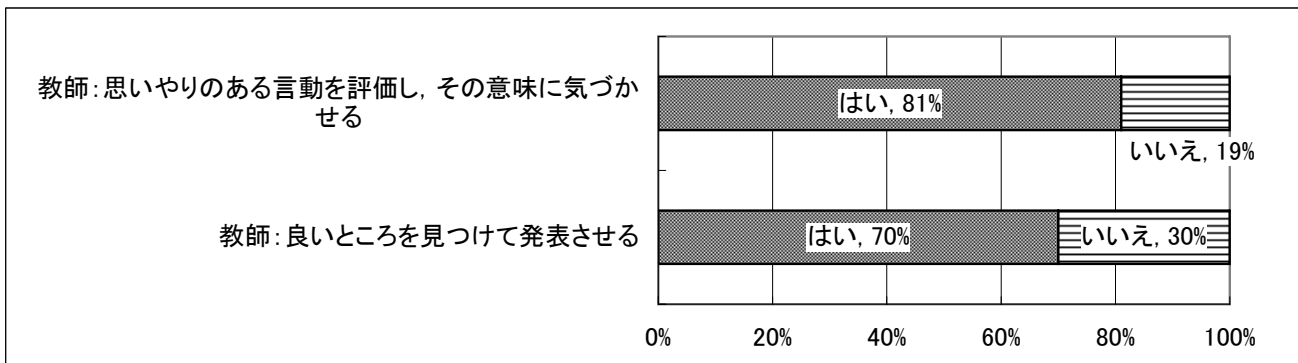


考察

- ① 学年で統一の問題で取り組めている。
今後は、月ごとの計画を学年で立て進行管理するだけでなく、評価・改善を図る。
- ② 間違えたところを確実に直させることにより、学力の定着を図る。

中期経営目標 思いやりのある言動ができる

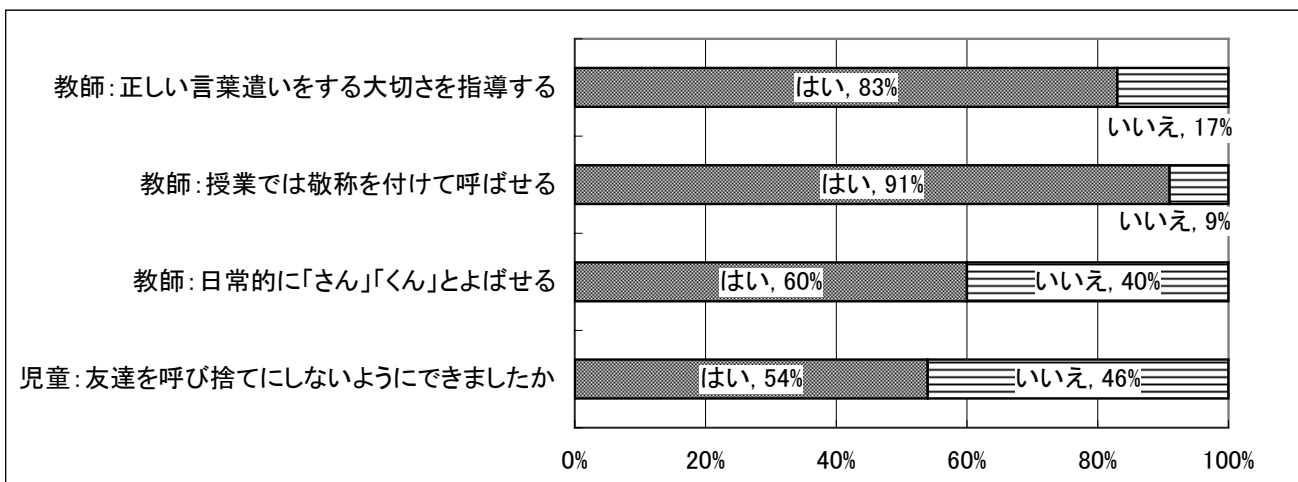
(短期実践目標) 思いやりのある行動を発表させる
 (評価指標) 学級で決めた回数以上に報告機会を設けた学級の割合



考察

- ① 思いやりのある言動について評価することは80%以上できている
報告機会については、予定を下回っている学級が30%近くありリズムとして定着していない。
- ② エンカウンターも取り入れ学級作りをする。

(短期実践目標) 友達を呼び捨てにさせない
 (評価指標) 呼び捨てにされていない児童の割合



考察

- ① 授業の中では敬称を付けることができるようになった。
しかし、60%の達成率と、日常化には至っていない。
教師による振り返りをさらに下回って、児童の振り返りでは54%の達成率となっている。